

人と魚と海のネットワーク
香川県漁連ホームページ
<http://www.jf-net.ne.jp/kagyoren/>



JF 高松市北浜町8-25
TEL 087-825-0350
FAX 087-851-0699
JF香川漁連



謹賀新年



香川県漁業協同組合連合会

代表理事会長 服部 郁弘

新年明けましておめでとうございます。年頭に当たり、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

旧年中は、本会業務運営につきまして、格別のご理解とご協力を賜り、ここに厚く御礼申し上げます。

申年は荒れるとの言葉通り昨年世界では相次ぐテロ事件、イギリスのEU離脱、北朝鮮のミサイル発射、そしてアメリカ大統領選挙でのトランプ氏の勝利等の出来事がありました。一方国内では北海道や東北地方での相次ぐ台風による風水害や熊本、鳥取両県では地震による災害と、まさに激動の1年でした。

水産業界では築地市場から豊洲市場への移転に関する問題が注目されました。土壌汚染対策として盛り土がされてなかったという事から端を発したこの件は、食品の安全・安心に係る事であり一日も早い解決を望むばかりです。

昨年の県下漁業を振り返りますと、燃油価格は一時に比べると落ち着いてきましたが、餌飼料価格は高値安定で推移しており魚類養殖業の経営を圧迫しています。また漁船漁業では、一部の漁業で良い傾向が見られたものの、全体的には天候や海況の変化等の影響もあり、漁獲量の減少が続いており、漁家経営はますます厳しさを増しております。

そのような中、本会といたしましては、漁船リース事業や機器等導入事業等による水産業競争力強化緊急事業を支援し、県内水産業の振興に努めてまいります。また、水産資源の安定供給の確保と漁業経営の健全な発展を実現させるため資源管理型漁業の普及啓蒙に努めるとともに、燃油及び配合餌料のコスト高騰対策である漁業経営セーフティーネット構築事業を推進してまいります。

昨年はハマチ養殖88周年の記念の年ということで、「さぬき海の幸販売促進協議会」の事業として11月26日には88番札所大窪寺の手前、前山おへんろ交流サロンにてハマチPRの記念イベントを行いました。また、初めて栗島、直島にてイベントを行い、多くの県民の方にご参加いただきました。県外フェアとしては毎年行っている首都圏、京阪神地域に加え、北海道や名古屋において香川ブランドハマチ三兄弟をはじめ、香川県産ノリ・イリコや、讃岐でんぶく、讃岐さーもん、さぬき蛸などのPR活動を行いました。本年も昨年同様、関係団体、県、系統、業界が一丸となり県産水産物の販路拡大、知名度向上を一層推進するため活動してまいります。

今後も厳しい経営環境が予想される中、会員・所属員の経済的、社会的地位の一層の向上を目指して諸事業に取り組んで参る所存でありますので、会員各位をはじめ関係者諸賢におかれましては、なお一層のご協力をお願い申し上げます。

最後に、皆様方の限りないご繁栄とご健勝を祈念いたしまして、新年のご挨拶と致します。



香川県かん水養殖漁業協同組合

代表理事組合長 嶋野 勝路

新年あけましておめでとうございます。

年頭にあたり、謹んでご挨拶を申し上げます。

顧みますと昨年のかん水養殖業はハマチ、カンパチ、真鯛共に種苗の池入れは順調に進み、近年、赤潮被害もなく、夏場の高水温でハマチの成長が遅れたものの9月中旬頃からハマチ、カンパチの出荷が始まりました。

ハマチは昨年より30円高の780円、カンパチは昨年より70円下げの1,030円でスタートして12月中旬過ぎに漁連枠は完売しました。ハマチは5万尾程の年越しを余儀なくされましたが、1月中旬頃には完売されると思われま

す。生餌、魚粉共に高止まりで推移して漁家経営は厳しさを増していますがセーフティネット構築事業、並びに生餌調整保管事業により経営安定を図って参りましたが飼料高騰対策は行政レビューに依り、見直さざるを得ない状況になっています。

水産庁の需給検討会ではブリ類14万トン、真鯛7.2万トンとガイドラインで示しており、2月7日高松市で開催の第42回全国海水養殖シンポジウムでも府県代表者会議での報告も踏まえて、過剰生産にならぬよう呼びかけて参る所存です。

「さぬき海の幸販売促進協議会」では官民一体となり、県産ブランドのひけた鰯、直島ハマチ、オリーブハマチの販路拡大、販売促進に力点を置き取り組んでおり今後共、組合員の負託に応えるべく積極的に参加、協力して参ります。

国においてはTPP締結が視界不良となっていますが我々、生産者は如何なる状況になろうとも我が国の食料安保の為にも浜の生産者が額に汗して歯を食いしばって所期の目的達成に向け共に頑張る所存ではありませんか。

ハマチ養殖発祥の地として、魚類養殖の灯をともしつつ明日を担う若者が夢を持てるよう、官民一体となり、県水産課並びに香川県漁連と連携を深め、役職員一同、心を新たに本組合運営にあたる所存であります。

組合員皆様には尚一層のご理解ご協力をお願い申し上げます。年頭のご挨拶とさせていただきます。

香川県海苔養殖研究会

会長 西口 正弘

新年明けましておめでとうございます。年頭にあたり、謹んで新年のご挨拶を申しあげます。

昨年漁期を振り返って見ますと、漁期当初より九州地区の不作予想のなか開始されました。しかし、年内生産は食害、生理障害等で生産枚数は落ち込みました。1月以降も生産量は大きな改善までは行きませんでした。2月以降の栄養塩が低下したことによる、色落ち製品がかなり出たものの下物価格が例年より3~4円高となり、漁家によっては昨年を金額で上回る所もありました。

さて28年度は、リオオリンピックが開催され日本中が盛り上がりました。また、観光の面でも訪日外国人の2,000万人突破等で沸いていますが、まだまだノリ業界までその恩恵が波及されていないのではないかと考えられます。少なくとも2020年の東京オリンピックまで好況が続くことを期待したいものです。

今年のノリは10月以降の高水温により例年より育苗、本張りがやや遅れたため、また、食害及び生理障害により生産がままならず、思ったより生産枚数は伸びませんでした。

後継者育成に関しても研修会を開催するなど生産技術の向上等を図り、後継者に魅力あるノリ作りになるような環境にしたいと考えています。

本年も、各種イベントに参加して香川県産海苔の普及PR活動に力を注ぎ、今後の消費拡大に役立てていきたいと思ひます。また、現在使用中の初摘み認証マークも徐々にではありますが認知度もアップしてきております。尚一層のPR活動に取り組んで参る所存です。

最後になりましたが、関係各位の皆様のご健勝と本漁期の結果が良くなることを祈念しまして年頭のご挨拶と致します。



香川県無線漁業協同組合

代表理事組合長 服部郁弘

新年明けましておめでとうございます。

平成29年の年頭に当たり、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

昨年中は当組合の事業運営につきまして、組合員の皆様を始め、関係官庁・関係団体の皆様には、格別のご協力とご支援を賜り誠に有難うございます。

昨年は、4月に熊本県で最大震度7の地震が発生し、沿岸部も被害がでました。また、11月に福島県沖を震源とする地震があり、福島県で震度5弱、仙台港では1.4メートルの津波を観測し、漁船の転覆や牡蠣養殖施設に被害が出ました。平成23年3月の東日本大震災では、漁業無線を介して多くの漁船を避難させたり、電話回線が使えない中で、無線による救急車やヘリの手配、安否情報の発信等に対応し、大変役立ちました。

漁業無線は一斉呼び出しによる災害時の避難情報や海難情報の他に操業の情報等、航行や操業の安全、漁業の効率化にも繋がる情報手段として利点があります。また、デジタル無線機であれば、受信した各種気象情報や緊急通報などが文字で蓄積される優れた機能があり、漁船の安全性の向上等に貢献することが期待されます。総務省では、船舶の衝突事故防止を図るために自船の位置を発信する簡易型船舶自動識別装置（AIS）や、航行する船舶との共通通信の手段として国際VHF無線機を装備することを推進しているところです。

本県の漁業環境は、組合員の高齢化・漁業後継者不足・漁場環境の悪化による漁獲量の減少に加え、魚価の低迷など大変厳しい状況に置かれています。当組合におきましても、高齢化による組合員数の減少や携帯電話の普及に伴う無線利用者の減少が続く厳しい状況にあります。しかしながら、本県の重要な基幹漁業である漁船漁業の発展のため、漁業無線の円滑な運用に努め、地道に努力を続けていく所存ですので、組合員各位をはじめ、関係官庁並びに関係団体からのご指導・ご協力の程よろしくお願い申し上げます。

結びにあたり、皆様方のますますのご繁栄とご健勝を祈念申し上げ、新年のご挨拶といたします。

一般社団法人 香川県水産振興協会

会長 服部郁弘

新年明けましておめでとうございます。

平成29年の年頭に当たり、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

昨年中は当協会の業務推進につきまして、会員を始め関係者皆様には格別のご支援、ご協力を賜り心より厚くお礼申し上げます。

昨年を振り返ってみますと、初夏にエルニーニョ現象が終息した影響から県内では梅雨明け後は猛暑日が連続し、非常に暑い夏となりました。屋島湾の表層水温のデータによると、8月下旬は28℃以上の高水温が数日続いたとのこと。県内水産業にとり、将来にわたって水産資源を維持できるかが大きな課題ではありますが、昨夏の高水温の影響で資源回復の兆しがあったアイナメ、マコガレイなどの冷水系の魚種が再び減少しないか危惧される所です。資源の維持増大に関して、当協会ではヒラメ、クルマエビ、キジハタなど重要魚種の種苗放流を継続実施し、加えて、より効果的な放流方法と放流場所等を調査する放流効果実証事業を行っております。

また、水産物の普及PRも大きな課題となっております。残念なことに、現在国内では若年層を中心に魚離れが進行しており、本県も例外ではありません。当協会としては県産水産物の学校給食への食材活用、地産地消・食育の推進に加え、「さぬき海の幸販売促進協議会」に参画することにより、魚食のPRを行っております。特に豊かな瀬戸内海で育まれた本県の水産物は非常に美味しく、また栄養価も優れております。県内外問わず、多くの方々に味わってほしいものです。

漁場環境保全対策事業としては海浜清掃事業等の支援、また、県漁連、県水産課、ライフガードレイズかがわ及び海上保安部等関係機関と協力し、海難事故を未然に防ぐため、ライフジャケットの着用推進に努めております。しかし、近年本県海域における海難事故は増加傾向にあり、ライフジャケットの着用率も、いまだ低い状況です。今後も海難事故の未然防止に向け、ライフジャケットの着用推進運動等を積極的に推進していきたいと考えております。

最後に、平成29年が事故無く豊漁となりますよう祈願し、併せて会員並びに関係者皆さまのご活躍とご健勝を祈念申し上げ、新年のご挨拶といたします。

全国漁業協同組合連合会

代表理事会長 岸 宏

新年あけましておめでとうございます。全国の組合員並びにJFグループの皆様にご挨拶を申し上げます。

振り返りますれば、昨年も多く自然災害が襲ってまいりました。その中でも4月に発生した熊本地震では、私自身複数回に亘り現地を訪問し、JFグループとしていち早く総額7,600万円にもものぼる系統募金を贈呈することができました。現地では既に海苔共販が行われるなど復興に向け前に足を進めております。ここに改めまして皆様のご協力に御礼申し上げます。

また、昨年は漁業者の悲願であった漁船建造に関するリース事業や機器導入事業などによる「水産業競争力強化緊急事業」が平成28年度補正予算で255億円措置され、「浜の活力再生プラン」という海図とともに漁業者自らが浜の構造改革を実践できる段階に入りました。私は常々申し上げておりますが、知恵は現場＝浜にあります。漁業者が自らの浜に合う方法でJF、行政など関係要路の協力を得ながら、構造改革を確実に行っていただきたいと思っております。

一方で、浜の構造改革には、人材育成も重要です。これについては、近年、漁業に魅力を感じている若者たちの就業をはじめ、浜の起業家育成など、人材育成の仕組みを創ります。また、水産物の消費拡大、輸出振興については、平成26年度より開始したプライドフィッシュプロジェクトやシンガポールのアンテナショップを活用した取り組みが消費者、流通に対して一定の浸透と効果を出しており、これらを押し進め更なる消費拡大を図って参ります。

このほか、漁業者が担っている漁業の多面的機能の一つである国境監視機能について、多くの国民の支持をいただくための取り組みを行うとともに国に対して国防機能の中で漁業者、漁村の果たしている役割、重要性をしっかりと位置づけていただくよう強く求めていきます。

会員をはじめ、関係者の皆様にかかれましては、これら諸課題を乗り越え、本会と共に「水産日本の復活」に向けた歩みを進めていただきますようお願い申し上げます。

最後になりますが、全国各地でご活躍の漁業者の皆様のご安全とご繁栄・ご健勝を祈念いたしまして、新年のご挨拶といたします。

乾海苔初入札

平成28年度県内産養殖ノリ（乾海苔）の初入札会が、12月15日（木）高松市瀬戸内町の本会共販所において開催されました。



第1回共販の様子

今年の本張りについては、例年より4～5日遅れ、その後の食害、芽流れ及び荒天により殆どの地域で12月に入ってから生産となりました。

初共販の出品枚数は入札日の関係もあり、昨年より少ない出品となりましたが、出荷組合グループは東讃地区と中讃地区を除いて出品され、等級は、一部特クラスがあるものの1等・2等が中心となりました。

第1回の共販枚数は、5,746千枚（昨年7,872千枚）となりました。初入札の結果は入札金額84,363千円（昨年110,193千円）前年対比77%、平均単価は14.68円/枚（昨年14.00/枚）でした。これから県下全地区で本格生産に入りますが、今漁期の豊作を心より期待致します。

漁船保険組合臨時総代会

12月9日（金）漁連会館6階大会議室で平成28年度香川県漁船保険組合臨時総代会が開催されました。本臨時総代会は、新設合併の決議、設立委員の選任、28年度上半期事業報告、理事1名の辞任に伴う補欠選任、役員退職手当の支給について開催され、上程された議案はすべて原案通り可決承認されました。

選任された理事1名は下記の通り。

理事 谷澤 一美（下笠居漁協組合長）

お詫びと訂正

漁連だより12月号に掲載致しました「松岡組合長旭日小綬章受賞」記事におきまして、以下の通り内容の誤りがありました。訂正してお詫び申し上げます。

※議員在任期間について

誤)「合わせて5期20年」

正)「合わせて6期24年」